

伸縮計の目的と概要

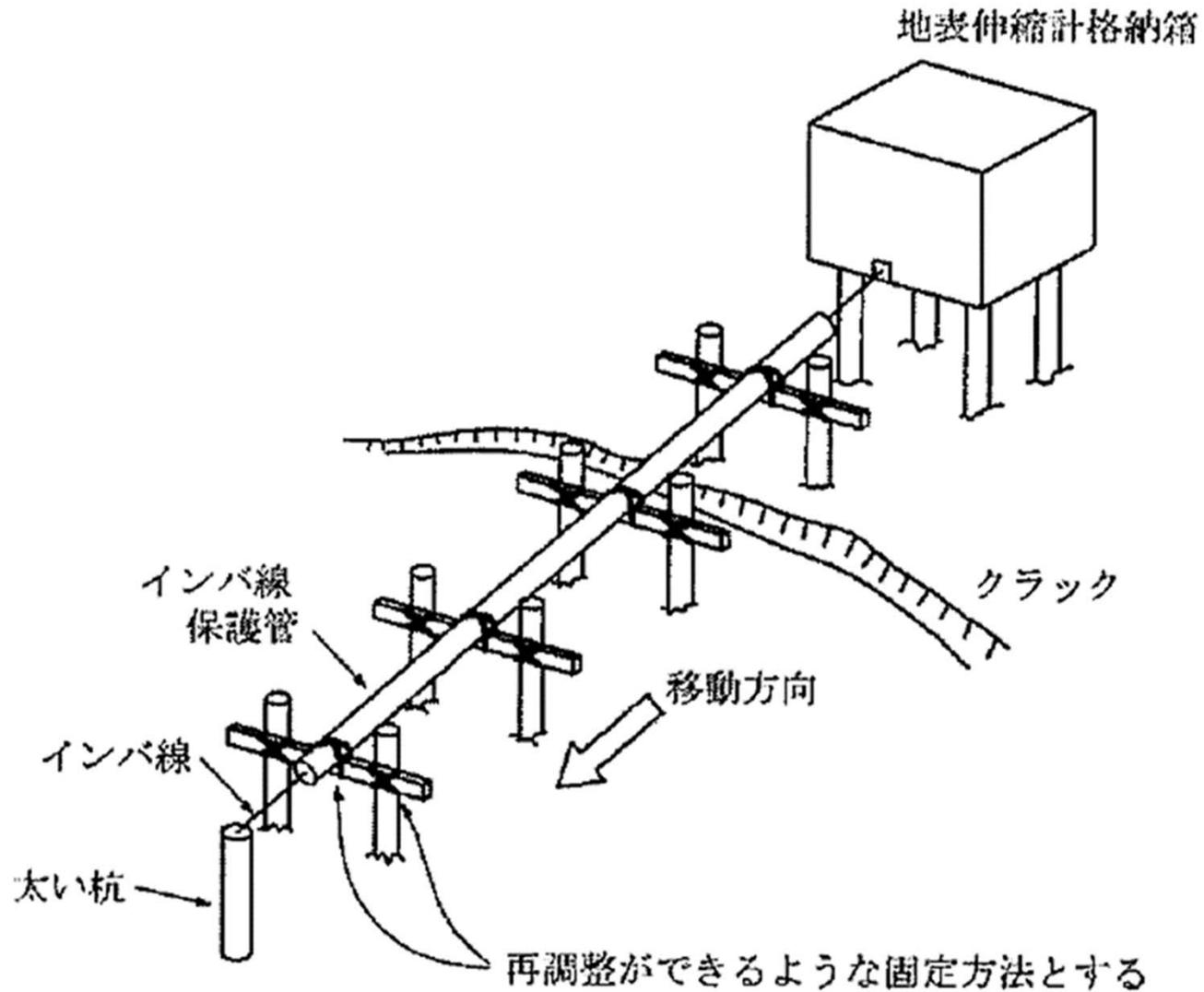
目的

- 地すべり土塊の移動量の把握

概要

- 地表の2点間のなどの相対距離の経時変化を測定・記録する

伸縮計 測定イメージ



『改訂版 現場技術者のための地質調査技術マニュアル』より引用

伸縮計 実施上の留意事項

記録にノイズが生じる場合の対応

- 保護用塩ビ管が屈曲し、インバー線に触れている インバー線に触れないよう、保護管の屈曲を直す
- 保護管の引抜けや脱落により急激にインバー線に負荷がかかる 保護管補修、支柱補強などを実施
- インバー線に異物(小枝など)が接触 触れているものを除去、立入防止策設置、小動物の巣の撤去などを実施

記録が欠測している場合の対応

- 記録ペンの送り不良、浮き上がり、インク切れ 記録ペンと時計軸との噛み合わせ部分を清掃、ペンをセットし直す、ペンも定期的に交換
- 地すべり移動量が大きく、伸縮計の測定ストローク超過 地すべりの移動速度に見合った巡回点検を実施、インバー線張り直し
- 測定器の時計の停止(故障、電池切れなどによる) 1～2回/年程度の頻度で定期点検、電池交換
- インバー線の切れ 1回/年程度の頻度で定期点検

耐用年数と点検頻度

- 伸縮計の耐用年数3～5年。1回/月程度の頻度での点検が望ましい

『改訂版 現場技術者のための地質調査技術マニュアル』を参考に作成

伸縮計による挙動監視 管理基準例

変動種別	日変位量 (mm)	累積変位量 (mm/月)	一定方向への累積傾向	変動形態	変動判定	活動性
変動A	1以上	10以上	顕著	引張り	確定	活発に運動中、表層・深層地すべり
" B	0.1 ~ 1	2 ~ 10	やや顕著	引張り及び断続変動	準確定	緩慢に運動中、粘質土・崩積土すべり
" C	0.02 ~ 0.1	0.5 ~ 2	ややあり	引張り及び圧縮	潜在	継続観測必要
" D	0.1以上	なし (断続変動)	なし	規則性なし	異常	局部的な地盤変動・その他

『改訂版 現場技術者のための地質調査技術マニュアル』を参考に作成